



耳鼻咽喉科医長 飯田達夫

●日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医

▶耳鼻咽喉科からのお知らせ

こんにちは。行田総合病院耳鼻咽喉科の飯田です。当院へ赴任して2年程経ちますが、このたび耳鼻咽喉科の紹介の機会をいただきましたので、当科の現状につきましてご紹介させていただきます。

●外来について

耳鼻咽喉科は、行田総合病院附属行田クリニック1階にあります。2024年10月より外来新棟が稼働し耳鼻科ブースの引越しがありますので、来院の際は窓口で確認をお願いします。耳、鼻、咽頭、喉頭、頸部などに生じる様々な疾患に対して診療を行っています。必要に応じて聴力検査、超音波検査、穿刺細胞診検査、CT、MRI、血液検査などを行い、他の診療科と連携をとりながら診療を行っています。

●入院について

外来通院では病状の改善が見込めない場合や、自宅に帰ることができない場合は入院加療とさせていただきます。

めまい、急性扁桃炎や扁桃周囲膿瘍などに対しては点滴加療を行い、糖尿病合併の顔面神経麻痺や突発性難聴に対しては内科での血糖管理のもとでステロイド加療を行っています。重度の突発性難聴に対しては高気圧酸素療法も併用しています。

手術加療が必要な場合は、手術も勧めさせていただいております。全身麻酔の場合には手術前日に入院し、手術当日に行田総合病院内にある手術室で行っています。局所麻酔手術の場合は手術当日に来院していただき日帰りか1泊入院としています。直近2年間では内視鏡下鼻副鼻腔手術、口蓋扁桃摘出術、気管切開術、顎下腺摘出術などの手術を行なっています。

●手術について

手術については、当科は耳鼻咽喉科常勤1名のため、内視鏡下鼻副鼻腔手術、扁桃手術や舌下腺摘出、喉頭微細手術、顎下腺と頸部嚢胞性腫瘍までの頸部手術、鼓膜チューブ挿入や鼓膜形成術、耳瘻管や粉瘤摘出などの範囲内としています。

急を要する疾患や、耳下腺や甲状腺手術、鼓室形成術、悪性疾患などについては診断までにとどめ高次施設に紹介させていただいています。

耳鼻咽喉科の守備範囲は首から上と比較的広範囲で、多岐に渡る疾患の患者さんが受診されます。当科は当日受診も可能であり、予約待ちもない状態に努めています。当科では対応が困難な悪性疾患や専門的手術を要する患者さんは早急に大学病院や専門病院などに紹介させていただいています。

当科はある程度の外科処置と入院に応えることができ、気軽に受診できる地域の町医者という思いで日々の診療を行っています。

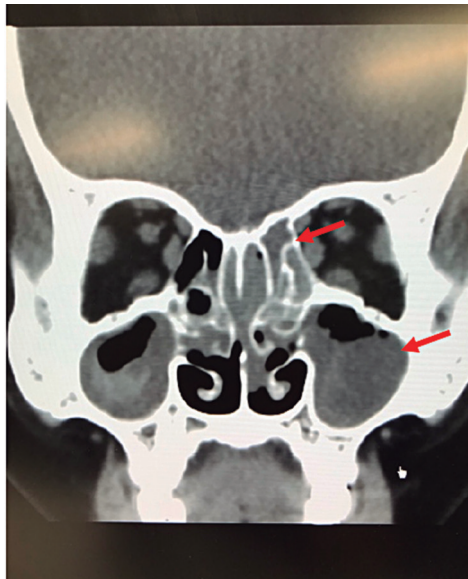
これからも地域の患者さんのニーズに応えていけるようスタッフと共に努めて参ります。首から上で気になることがありましたらどうぞお気軽にご相談ください。

また、当院からの紹介患者さんをご多忙の中診療いただいている他病院の先生方に、この場借りまして深く感謝申し上げます。

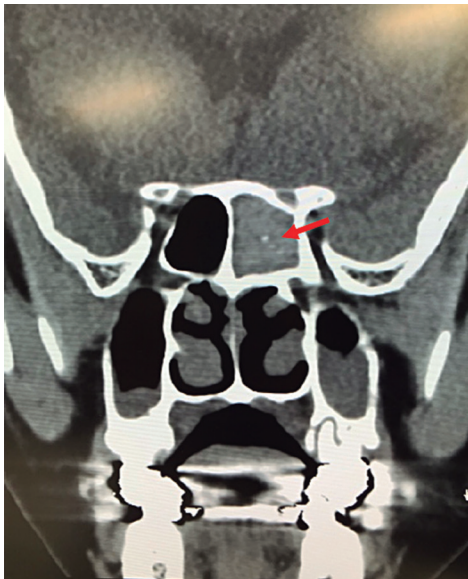
▽鼻

慢性副鼻腔炎に対して保存的な内服治療を続けても治療効果が得られない場合や頻回に副鼻腔炎を繰り返す場合、副鼻腔真菌症、好酸球性副鼻腔炎に対しては内視鏡下での鼻副鼻腔手術を行っています。

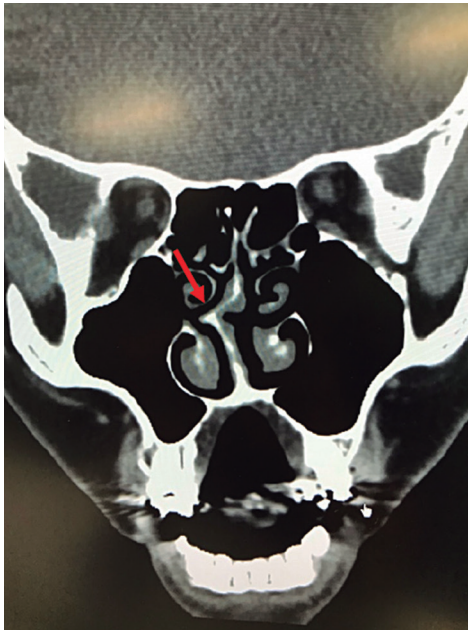
慢鼻中隔の彎曲が著名で鼻閉に悩む鼻中隔彎曲症の患者さんに対して内視鏡下鼻中隔手術を行っています（Fig 4 鼻中隔彎曲症）。



△ Fig1：慢性副鼻腔炎(矢印は膿汁・ポリープ)



△ Fig2：副鼻腔真菌症（赤矢印は真菌塊）

△ Fig3 好酸球性副鼻腔炎
(全副鼻腔のポリープ)△ Fig 4 鼻中隔彎曲症
(赤矢印は極度に彎曲した鼻中隔)

▽のど

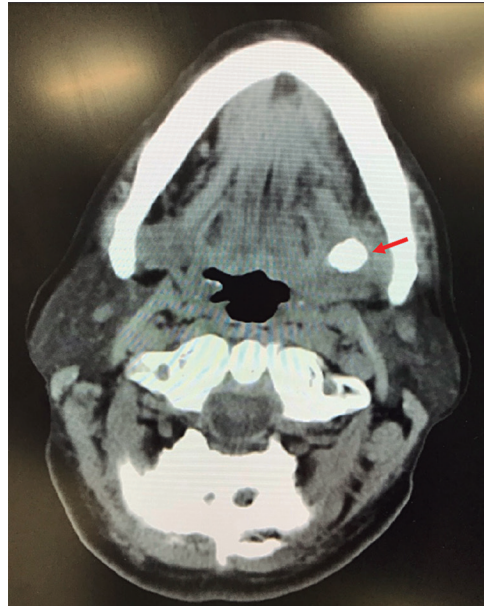
年に3、4回以上扁桃炎を繰り返す方や扁桃周囲膿瘍既往のある場合は口蓋扁桃摘出術を行っています。

△ Fig 5：扁桃周囲膿瘍から喉頭浮腫まできたし気管切開を行った例
(赤矢印は喉頭蓋の浮腫、青矢印は膿瘍)

△ Fig 6：同症例の気管切開後

▷首

唾石による繰り返す顎下腺炎に対しては、経口的唾石摘出や顎下腺摘出を行います。



△ Fig7：顎下腺唾石症（赤矢印は大きな唾石）